

【死について】

- ・ 肉体から^{ゆうたい}幽体と^{れいたい}霊体が^ぬ脱げてしまう事を死と表現しています。
あくまでも肉体を失っただけなので、^{ゆうたい}幽体と^{れいたい}霊体はそのまま存在しています。

5

★ 飛び降り自殺や、事故などに巻き込まれて突発的に死ぬ場合は、本人が死んだ事を自覚していなく死後の魂がしばらく眠っています。

10

- ・ 人間が肉体を失う直前に強い^{そうねん}想念を出すと、^{ゆうかい}幽界に行ってからもずーっと死の直前の状態を持ち続けます。

15

死者が死ぬ直前の想念を持ち続ける『真理』を利用して、江戸時代のある大名が、処刑者を打ち首にする時に、近くの石にかじりついたら慰霊塔を建てる約束をして、死ぬ直前の想念を石の方に向けさせて、自分を恨まないようにした話があります。

20

打ち首にされた罪人の首は、胴から離れて庭石に飛び、石にかじりつきましたが、かじりついたままで居られなくて下に落ちてしまいましたが、再び跳び上がって庭石にかじりつきましたが、やはり下に落ちてしまいました。

その後^{いれいとう}に大名は慰霊塔を建てませんでした。

家臣は慰霊塔を建てなかった大名を心配しましたが、この大名は、“処刑者は石にかじりつくことを第一^{いれいとう}に考えながら死んでいるので、死者の霊は石にかじりつく事だけに集中しているのだから、慰霊塔を建てなくとも自分が恨まれる事は無いのだ。”と言いました。

25

この大名は、人間は、死んでも、死ぬ直前の想念を持ち続ける事を知っていたのです。

30



35

40